

研究活動報告

スリランカ人口学会

2024年2月17日(土)にスリランカ・コロンボにてスリランカ人口学会年次会合が行われ、筆者は招かれ基調講演を行った。スリランカ人口学会は1997年に発足し、研究者、政策担当者など326人の会員を擁する人口学に関する学術組織であり、その事務局はコロンボ大学に置かれ、国連人口基金(UNFPA)やスリランカ統計局、スリランカ家族計画協会との連携も深く、今回の年次会合もそれら多くの関係者が参加した。インドからも参加者があり、またハイブリッドで行われたことから米国などからの報告もあった。

南アジアにおいてスリランカは、早くから教育水準が向上し、それに応じた死亡率の低減、生活水準の向上があった国である。スリランカ人口学会大会の後、コロンボ大学にて講演を行ったが、参加した学生のほとんどは女性であった。国立大学は授業料が非常に低く抑えられており、入学試験の倍率が非常に高く、特に人口学など人文社会学分野では、女性の割合が非常に高くなるとのことであった。近年では少子高齢化が進行し、合計特殊出生率は1.97と置き換え水準を下回り、65歳以上人口割合は11.9%で、今後急速に増加すると見込まれている。スリランカにおける老年医学、介護制度は比較的整備されてきてはいるものの、現在の経済危機や政治状況の混乱により、適切な高齢者施策が実施されるのか、課題も少なくないようである。(林 玲子 記)

日本人口学会関西地域部会・2023年度研究集会

日本人口学会関西地域部会・2023年度研究集会は、2024年3月16日(土)に神戸大学文学部(オンライン併用)で行われた。下記のとおり、プログラムは自由報告とシンポジウムの2部から構成された。

○自由報告

司会：中島満大(明治大学)

小島宏(早稲田大学) 関西在留外国人でコロナの濃厚接触確率が高く、感染確率が低めなのはなぜか

佐藤龍三郎(中央大学経済研究所) 日本におけるマルサス受容と人口論の形成：日本人口学会2024年大会企画セッションに向けて

○シンポジウム「日本の出生転換はいかに進展したのか」

司会：平井晶子(神戸大学)、中澤港(神戸大学)

コメンテーター：佐藤龍三郎(中央大学経済研究所)、中島満大(明治大学)

<特別講演> 大出春江(大妻女子大学) 近代日本の乳幼児死亡と出産の医療化—産婆と産院の制度化の視点から

小池司朗(社人研) 戦前における市区町村別出生力の空間パターン—東京圏・大阪圏の比較分析
村越一哲(駿河台大学) 戦前期における農家の結婚出生力